

第40号

発行所 茨城県筑西市下山590
茨城県立下館第一高等学校
紫西同窓会
TEL (0296) 24-6344代
FAX (0296) 24-4673
編集兼発行責任者 鯨之雅
印刷所 戸頃印刷所

紫西会報

年頭雑感

紫西同窓会長 中山喜一郎

(三十一回卒)



昨年我が国では、男性七九・二九歳、女性八五・〇五歳、平均寿命は、過去最高を更新し続けている。米国より五歳、中国より十歳、インドより二十歳長い。そして、十年後は、六五歳以上の人口は、現在の二二%から二九%に、追いつけるように韓国やシンガポールも二〇%、中国上海も三〇%が高齢者になる世界最大の経済圏に育つ東アジアは、巨大な高齢社会圏となる。日本を見る目は真剣だ。高齢化社会にのしかかるコストをみられがちだ。しかし、長寿型経済のモデルをいち早く確立できれば、それは各国が欲しが

るノウハウになる。(以上今年一月一日付日本経済新聞より抜粋)
ところで私の家を例に挙げると、数年前父親九八歳、母親九四歳。共に明治生まれが他界しました。共に長患いもせず、母親は自宅にて二十日程の看護、父親は老人ホームに七日病院に十日程の入院での大往生でした。両親が長生き出来たのは、跡取り息子(私)はまあまあだが、その嫁がとても良い方で、両親に接する態度が優しく、かゆい所に手の届く様な気配りであったと世間の人は皆さん言うてくれました。正にその通りだっ

たと思います。家庭内にいざこざがあったりしたのでは、お年寄りには安住していただけないと。その点私達も含めて両親は幸せだったと思います。明治時代より続いた家業を一昨年十月に廃業いたしました。(理由は加齢による身体各部の衰え、後継者なし。)特に腰痛がひどく、整形外科の診断を受け椎間板ヘルニアとのこと、あまり重いものを持ち上げたり、労働しては悪化する一方であるとの診断結果、やむなく百年以上も続いた営業に終止符を打つことになり、下館を中心とした二〇km圏内のお得意様、そして学校病院等納品していた全ての各所に、廃業のお知らせを持ち歩く寂しさ、如何とも筆舌に尽くし難いものでした。百年も続いた店を閉じる時の奥に侘びしさを知る

(喜一郎)

心配しなくともとの事。でも昨年度の検診結果表が届いたら大あわて、悪い箇所がいっぱい、血糖値は高い、心臓の機能も悪化、尿酸値も高い、眼底出血、それに加えてもとの高血圧、メタボリックシンドロームと良いことなし。さっそく検診結果表を持って、お医者さんへ。中山さん、仕事やめてから一年間で大分悪化しましたね、このままだと来年当たりあぶない、と。そんなに先生驚かさないうせ人間一度は逝くんだから早いと遅いの違いで、と。そうしたら、売り言葉に買い言葉、そんなら医者等にこなくても。いや先生華麗にいくつもりはないが、パタといけたらいいなと思う。誰でもそう思っているのだが、そううまく行かないのが世の常。半身不随に又は寝たきりになって周りの人達に迷惑を掛けたくないと想うから。自分自身の事だから、誰にも頼らず体調のコントロールに心がけなければ。

私昭和十二年生まれ、七十二歳、身長一六七cm、体重七五kg、まず体重を十kg落とす事、そして食事制限、栄養のバランスを考え、なるべく菜食主義プラス運動をする。毎日ウォーキング四〇分以上一時間位、商売をやめる前は毎日歩数計が、一万四、五千歩は指していました、が、廃業してからは毎日二千歩足らず、これでは体にいい訳ありません。両親の歳まで生きるには、あと二十数年、そんなに長生きしなくても、せめてその半分位は健康で余生を送りたいものです。そして、日本国中隅々までドライブし、観光を楽しみ、機会があれば、海外にも行って見たいと想う今日この頃です。自分のことばかり述べて誠に申し訳なく思います。誰彼とは申しませんが、私と似た様な方がいるのでは。下館紫西同窓会員の皆さん、冒頭にも記しました様に、日本も正に高齢化社会、六〇歳定年を過ぎても、今迄の職業上の技術と経験、そして知識を生かして、世の中の為に役立ちながら、各々が健康に十分気を遣い、ボランティアも良し、又自分自身の趣味の世界を楽しむも良し、有意義で快適な生活を送る事を御祈念申し上げます。

質の高い教育を目指して

校長 宮本 節

(四十五回卒)



引き締まる思いでございます。

私が在学した当時の旧校舍は威風堂々とした大学のような重厚感のある学舎で

紫西同窓会会員の皆様には
ますますご清祥のこととお慶
び申し上げます。

皆様には日頃から本校の教
育活動に対し、多大なるご理
解と温かい励ましをいただき
衷心より感謝申し上げる次第
でございます。

私は、昨年四月の定期人事
異動で前校長・竹井茂雄先生
の後任として、本校の校長を
拝命いたしました宮本節と申
す者でございます。私は、昭
和四四年三月・第四五回普通
科の卒業であり、母校に奉職
することになり、歴代職員や
卒業生の築き上げられた歴史
の重みや責任の重大さに身の

舎で育てられたことは間違いない事実であり、感謝とともにその恩に報いるために、一生懸命に母校に尽くす覚悟でありますので、よろしくお願い申し上げます。

昨年、京都の清水寺で毎年発表される二〇〇九年の世相を表す今年の漢字に「新」が選ばれました。鳩山新政権やオバマ新大統領の誕生、新型インフルエンザの大流行、新制度である裁判員制度、イチロー選手が樹立した九年連続二百安打の大リーグ新記録などが選んだ理由のようです。

そして、アメリカのサブプライム問題に端を発した経済不況の影響を受けて、我が国でも百年に一度という未曾有の経済危機に陥り、雇用不足、深刻なデフレ傾向など、先行き不透明な大変動しい状況が続く中、教育界も教育改革が進み大きな変革の時代を迎えているところであります。ご存じのように、平成一八年、昭和二二年に施行されて以来六〇年振りに教育基本法が改正され、「生涯学習の理念」、「家庭教育」、「幼児期の教育」、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」等の条項

が新設されました。その教育法規の根本法が改正されたことにより、教員免許更新制の導入などを盛り込んだ教育改革関連三法が改正されました。

本県においても、教員評価が十八年度から試行として導入され、二一年度からは本格実施されました。十九年度からは、全国に先がけて「道徳」を県立高等学校第一学年（一年次）の全生徒に、「総合的な学習の時間」で一単位（三十五時間）を履修（教育課程に位置づけられ必修とされた）することにいたしました。道徳教育の目標は、人格の基盤となる道徳性を養うことであり、生徒一人一人が道徳的価値や人間としての在り方生き方に関する自覚を深め、豊かな心を育て、未来に向けて人生や社会を切り拓いていくこととする道徳的実践力を高めることであります。さらに、二〇〇年度からは学校が適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めるため、「学校関係者評価」が実施され、自己評価の結果及び改善方策について評価す

ることになりました。このように新しい施策が実施されているところであります。

現在、学校教育の最大の課題点を挙げるとすれば、それは、児童・生徒の減少であるといえます。平成元年における中学卒業生数は約五万人であったのに対し、平成二一年三月の中学卒業生数は二万九千六百九人と二〇年間四割減少しております。さらに、平成三三年三月の中学卒業生数は二万五千七百三十四人にまで減少します。本県においてはこれまで社会の変化や生徒の多様化及び中学卒業生数の減少に適切に対応するため、茨城県高等学校審議会答申を踏まえて、第1次再編整備として「県立高等学校再編整備の前期・後期実施計画（平成十五年度～二二年度）」を策定して、学科改編並びに総合学科、単位制高等学校、中高一貫教育校の設置等により多様な魅力ある学校・学科づくりを進めるとともに、学校の統合等を実施して活力ある学校づくりに努めてきたところです。さらに第二次再編整備（平成二二年度～三三年度の十年間）を策定し再編整備を進めるこ

とになっていきます。

本校においても、ここ数年の志願者数の推移を見ると今後生徒減少期において、募集定員（一学年七学級二八〇名）や進路実績等を維持することは大変困難な状況になることは昨春の中学校訪問等で実感しているところであります。今後、積極的な広報活動や本校独自の教育環境の整備が必要であると考えます。

学校は言うまでもなく、学力の向上と豊かな人間性の育成を普遍のテーマとして、「知・徳・体」のバランスのとれた質の高い教育を目指すものであります。日常的には「学習と生徒指導が生徒育成の両輪」とであるという考えのもと、生徒と教師が共に学び続ける意欲、教師が気力に溢れ、生徒を引っ張るリーダーシップが必要であります。

本校は平成二五年度に学校創立九〇周年、さらに平成三三年度には学校創立百周年の大きな節目を迎えることとなりますが、更なる発展を願う学校運営に全力であたる所存でありますので、紫西同窓会員の皆様方のご支援をお願い申し上げます。

定時制の近況報告

定時制教頭 松本正人

(五十一回卒)



対象校のため、平成二十三年三月をもって閉課程となります。したがって、平成二十年および二十一年四月の入学生募集は実施しませんでした。

本校の定時制課程は、終戦直後の昭和二十三年に開設され、今年度が開設六十一周年目となります。当初は、経済的に恵まれない中にも向学心に燃える勤労青年のためにあった定時制課程でしたが、急激な経済成長等、社会状況の変化に伴い、現在では就学の目的も多様化し、本校においても中学校時代に不登校を経験した生徒や全日制を中途退学した生徒たちが再出発を求めて入学してくるなど、様々な環境下の生徒達が日々勉学に励んでいます。

紫西会報

しかし、本校定時制課程は、茨城県高等学校再編整備計画

そのような中、平成二十一年十二月現在、三年生以上男子十一名、女子八名、計十九名の生徒が在籍しています。年齢構成については、十二月一日現在、十才代十二名、二十才二名、三十六才一名、六十二才二名、六十九才一名、七十才一名です。中でも六十才以上の方々は皆さん向学心が高く、若い生徒達にとって生活行動すべてが模範となっており、課程全体に良い影響を与えています。また、水戸南高通信制との併修により、三年間で卒業を目指している生徒が三年生で一名在籍しています。

日常の学校生活は、夕方五時三十分からの第一時限目授業から始まります。続いて定時制ならではの給食後、二時限目以降四時限目まで授業が行われていますが、年間に履修する単位数は十九単位であり、他にホームルーム活動が週一時間実施されています。

近年、各種業界への就職は厳しい状況にあります。本校定時制生徒の多くについて、もなかなか就労に就けていないのが現状です。しかし、卒業後の就職や進学を目指して、日々勉学に励む姿は立派です。さて、本校生徒の活動についてですが、まず、文化的活動について申し上げます。

すでに本校の伝統として定着している「俳句・短歌」に関する活動は、日頃から全日制文芸部と合同で行われていますが、八月に岩手県盛岡市で開催された「第四回全国高校生短歌大会（短歌甲子園2009）」には四年連続で出場し、団体戦で「話題賞」、個人戦で四年生男子が「優良賞」を受賞しました。その他、「第二十四回国民文化祭・しずおか2009文芸祭（短歌）」において、三年生男子が静岡

県知事賞を受賞するなど、数多くのコンクールで入選・入賞を果たしております。

また、十一月に開催された「茨城県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」では、本校から出場した二名の男子が「還暦の青春」、三年生男子が「定時制を糧に」という題でそれぞれ発表しました。残念ながら入賞はなりませんが、両名とも堂々とした発表態度でした。

さらに、十二月に茨城県立図書館ギャラリーで開催された「第2回茨城県高等学校定時制通信制芸術展」には、絵画五点、書道十二点を初出展しました。

続いて体育・スポーツ活動について申し上げます。

六月に開催された県定時制通信制体育大会にはソフトテニス女子個人戦に二組（二名）、卓球男子個人戦に二名が出場しました。（他陸上競技一名は当日棄権）。その中でソフトテニス女子が二年連続

で優勝し、本県代表選抜チームの一員として八月の全国大会に出場しましたが、見事第三位入賞を果たしました。特に、本校の選手は全試合に出場し全勝。チーム活躍の原動力となりました。現在、本校の生徒数は極めて少ないため、学校単独団体競技への出場が困難ですが、今回のように全国的に活躍できたことは大きな喜びです。

以上のように、充実した学校生活が繰り広げられている定時制ですが、約一年後に迫った閉課程を思うと寂しいかき



りです。しかし、最後の学年となる現三年生の生徒達は、「最後まで頑張る」という自覚を充分備えており、真剣に学校生活を送っております。そのような生徒達の志に報いることができるよう、教職員も一丸となって取り組んでいるところで、今後も引き続きご支援をお願いいたします。

最後に、生徒の感性豊かな作品を紹介し、近況報告の結びとします。

現場での親父の背中
ドッシリと
大きく見えた北風の中

第四回全国高校生短歌大会（短歌甲子園2009）

優良賞

定時制四年鈴木兼三郎さん（六十二才）の作品

僕の名は将棋の歩と書く
アムムです

金の力を秘めております

第二十四回国民文化祭・しずおか2009文芸祭（短歌）

静岡県知事賞

定時制 三年橋本歩君の作品

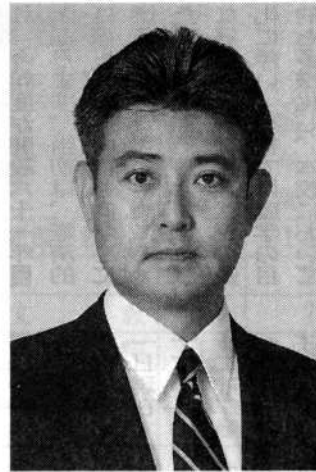
寄稿

茨城県教育委員長に就任して

関彰商事株式会社代表取締役社長

関 正樹

(五十八回卒)



職務を全うするよう努力したいと思っています。また、一人の保護者として、茨城県民として、また企業の責任者として、茨城県教育委員会の発展に寄与していきたいと思っています。

昨年十月に茨城県教育委員長に就任いたしました。茨城県教育委員会は、県内の学校(私立学校、高等専門学校、大学を除く)の管理運営の指導助言、命令監督などを行うほか、社会教育、学術、文化などに関する事務を管理し、執行する機関です。教育委員はその取りまとめを行い、重責を担う職務です。

私は、平成十八年から教育委員を務めてまいりましたが、この度委員長に就任することになり、身の引き締まる思いであり、今年十月までの一年間の任期ですが、与えられた

実を申しますと、5年ほど前に、子供の通う学校でPTA会長を務めたことがありましたが、それまでは子供の教育には殆んど無関心でした。役員を務めたことで、先生方の一生懸命さや地域と学校の結びつきなどを初めて知ることができ、大変貴重な体験をしました。それ以来、学校に通う子供を持つ社員に対して、できるだけ学校行事に顔を出して、関心を持つように話をしています。

さて、教育委員に就任した際に、不思議に感じたことがあります。それは、何でも自由に選択できる世の中なのに、子供は今後の人生に大きな影響を与える、或いは人生を左右すると言ってもいい担任の先生をなぜ自分で選べないのかということでした。その時には、すべての先生方が子供たちのことを思い、子供たちの一生を預かっているのだという気持ちを持っているから選ぶ必要などないのだと思いました。先生方にはこれからも、そうした高い志を持ち続けて欲しいと思っています。そして、そのような気持ちを持ち続けていただくために、教育環境を整えていくことが、我々教育委員の役割であると考えています。

現在、茨城県教育委員会は、茨城教育プランに基づき、各種施策を推進しておりますが、様々な課題が山積していることから、六人の教育委員が中心となって、五つのテーマからなる『茨城教育重点戦略デザイン』を策定しました。推進事項は、①「子供たちの基礎学力の定着」、②「道徳教育の充実」、③「健康教育

の充実」、④「学校経営力の向上」、⑤「科学技術創造立県を担う人材の育成」であり、今後3年間かけて推進し、一年ごとに検証していく方針です。

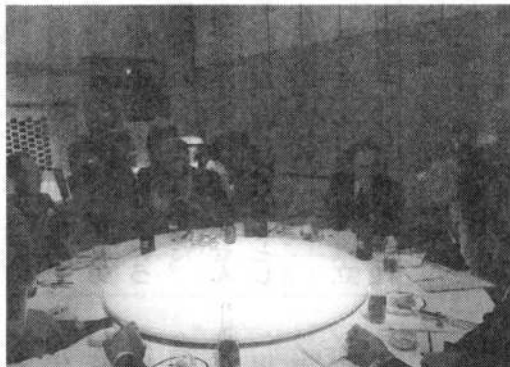
私は、下館第一高等学校の卒業生として、母校に対する愛着を持ち続けるとともに、常に、母校のことを心に留めながら、茨城県の教育界の発展に少しでも寄与できるよう、職務に邁進して参りたいと存じます。

同窓会便り

平成二十一年紫西同窓会水戸支部総会報告

支部長 大和田 實

(三十一回卒)



(四十五回卒) 同窓会より中山同窓会長の、来駕を頂きました。当日、県教育委員長に就任なされました、関正樹様(五十八回卒)がご臨席しました。所用が有り、開催前に次回も臨席したい旨を云い、お帰りになられまして残念でした。

定刻に会員四十五名招待者二名計四十七名

平成二十一年十一月十三日(金)水戸市宮町に有るホテルレイクビュー水戸で、十八時三十分より二十一年度水戸支部の総会及び懇親会を開催しました。学校より宮本学校長

により、卒業回数毎の席でしばらく振りの再会で、和気藹々の内進行をした。特に校長先生は、同窓の人や皆と話にうち解けていました。同窓会長は、顧問等と

話がはずみ、愉快に時間を過ごしていました。二二年は、出席率が悪くなってきて、五十名足らずで以前の様な七十七名位の出席率に高めるかが問題であるので、反省会で語りたい。今回は、女性の方が、三名出席して下さり、花を咲かせてくれ、有り難く思っており、次回も是非出席を願った次第です。歓談中で有ったが、中締めとして校歌斉唱・万歳三唱をし、二十時三十分頃散会となった。会員の皆様にも、水戸在住は勿論、水戸市に通勤している同窓の方にも声を掛け合って、大勢の方に出迎いたで、楽しい時間を過ごす事ができますればと願っています。

